



曾宮一念《種子静物》1934(昭和9)年

曾宮一念は、明治26(1893)年、東京に生まれました。東京美術学校では、藤島武二の指導を受け、卒業後は、二科展、独立展を中心に活動しました。そして、昭和20(1945)年には、静岡県富士宮市に住居を構え、平成6(1994)年に101歳で亡くなるまで、半世紀に及ぶ後半生を静岡で過ごしました。

風景の骨格を剥ぎ出すような極太の鋭い描線と深みのある鮮やかな色彩は、曾宮一念の特徴です。静岡に長く住みながら、富士山をモチーフとした作品をほとんど残さなかったことも有名なエピソードです。

この展示では、昭和10(1935)年に第5回独立展に出品した《種子静物》をはじめとして、当館が所蔵する曾宮一念の作品11点、すべてを出品します。あわせて、同じ時代に作画活動を行なった佐伯祐三、曾宮と同じく独立美術協会で活動した児島善三郎、里見勝蔵、清水登之などの作品を中心に「曾宮一念とその時代」を振り返ります。

# 曾宮一念と その時代

曾宮一念《スペインの野》1968(昭和43)年



2020 9/15 火

11/15 日

## 曾宮一念展 相互割引

静岡県立美術館と駿府博物館による  
曾宮一念展の相互割引がございます。  
詳しくは裏面をご覧ください。